

## ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 小松 健一

作成日 2021年3月9日

### 【責任】

薬理学分野に所属し、漢方関連科目の教育と研究を行っている。薬用植物学、漢方医薬学、総合演習Ⅰ(薬理学)、総合演習Ⅱ(薬理学)、早期体験臨床実習(区分Ⅱ)、基礎薬学実習(微生物学)、衛生・医療薬学実習(薬理学)と卒業研究の指導を行っている。入試広報センター、実験動物施設運営委員会、薬草園運営委員会、薬剤師国家試験委員会、100周年プロジェクト会議などに参加し活動している。他にバスケット部とダンス部の副顧問を担当しており、主に薬学部学生の部活動を支援している。

### 【理念】

薬剤師は、薬物療法の専門家であり、医師が判断した病状とそれに対する薬物療法が適切かを判断することも重要な任務である。また、医療の急速な高度化・多様化により、必要とされる知識・技能が複雑になっている。したがって「患者の病状を客観的に理解し、評価するために学び続ける。」ことは薬剤師にとって必要不可欠なことである。そのためには常に新しいことに興味を持ち、貪欲に知識の修得に努めなければならない。また、知識は科学的根拠に基づいたものでなくてはならず、様々な専門家の意見を踏まえた上で科学的根拠から自らの意見を構築していかなければならない。その一方で医療職である以上、感情も大切となってくる。私は感情論も分かった上で科学的思考能力を持った薬剤師となれる学生を育てたいと考えている。

### 【方針・方法】

上記の理念を実現するために、「学生の学習意欲を低下させない。」「知的好奇心を刺激する。」「科学的な思考能力を身に着ける。」という方針に基づいて教育している。学生に効率よく指導し働きかける為には学生から声を掛け易い存在でなくてはならないと考えている。学生とはできるだけ近い距離で接するように心がけることにより、学生は過度な緊張をせずに質問をしてくれるし、こちらからの話も良く聞いてくれる。ゼミ室には毎日顔を出し、声をかけている。毎日の話の中で最近のニュースに対する科学的評価を雑談のようにお互いが話すことにより科学的思考能力が身につけていると考えている。昨年はコロナウイルスの話題が毎日ニュースになっていたのも、そもそも「コロナウイルスとはどんなウイルスか」、「感染症の分類と原因菌の分類はどう違うのか」、「指定感染症法とは」、「日本の病気の死者数の順位は」、「ワクチンの種類は」、「日本の病床数」など学生の興味を持つ話題を科学的根拠をもとに話、専門家の意見のどこは賛成でどこが反対かなどを学生と話をした。こんな中で感情論は決して科学的思考と相反するものでなく感情も論理的に分析できることも伝えた。

#### 方針1 学生の学習意欲を低下させない。

- ・学生からの質問には丁寧に答える。
- ・遠隔授業でチャットを利用して、学生の積極的な授業参加を促す。
- ・担当科目以外で直ぐにはわからない質問も一緒に考える。

#### 方針2 知的好奇心を刺激する。

- ・他の科目とのつながりについても講義の中で取り上げる。
- ・実際のサンプルや植物を見せる。
- ・日常生活と関連付ける。

### 方針3 科学的な思考能力を身に着ける。

- ・卒研の調べ事や講義レポートのフィードバックの時に科学的な客観的事実と誰かの意見、自分の意見を区別するように指導する。

#### 【成果・評価】

- ・卒研学生の結果を学会で発表させ、ペーパーとして報告している。
- ・授業アンケートでは、概ね満足との評価を多くの学生から得ている。
- ・実験動物施設の運営を行うとともに実習や高校生への模擬講義で動物福祉に関する教育を行っている。
- ・薬用植物園の維持管理を行うとともに実際の植物を見せながら学生や薬剤師に植物の説明をしている。
- ・入試活動として高校生対象に薬理実験を実施したり、模擬講義を行っている。
- ・広報活動として春早い時期の「登録販売者生涯学習での講演」と野外での実習である「漢方生薬認定薬剤師薬草園研修」を行った。
- ・4年進級時の成績が悪かった2人(6年次補講対象者)を含め5人中5人が薬剤師国家試験に合格した。

#### 【目標】

短期的には、授業アンケートに基づいて授業改善を行い、科目の繋がりとわかりやすさ、面白さが伝わるような授業展開を行う。

長期目標としては、科学的思考のできる薬剤師を育てたい。